

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット2階)

事業所番号	2772800526		
法人名	医療法人 全人会		
事業所名	グループホーム ソシアス此花春日出		
所在地	大阪市此花区春日出北2丁目14-2		
自己評価作成日	令和元年6月29日	評価結果市町村受理日	平成31年11月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和元年9月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症ケアや介護の質の向上のために定期的な勉強会や内部研修への参加を促している。医師と看護師による日常的な訪問診療・夜間・緊急時の即応体制も構築しているので「重度化させず・入院させない介護」を目標に取り組み、出来る限り最後までホームで生活して頂ける体制を整えている。スタッフは認知症ケアのみならず医療支援についても毎月勉強会を重ね、介護の質向上に努めている。日中は施設することなくフロア内だけでなく上下の行き来もスタッフ付き添いのもと自由に行って頂けるよう援助しており、近隣には公園や商店街などもあり定期的に買い物や散歩など出かけて、地域との交流も大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

経営母体が医療法人で、医療依存度の高い認知症高齢者も可能な限り受け入れ、今までと変わらない極く当たり前の生活が出来るよう支援している。医療行為の必要な重度の利用者の居室の入り口には、体位交換、口腔ケア等細かな記録があり、一人の利用者を皆で支える工夫が見られる。この事業所で、今何が大事かを考えながら独自の理念「住み慣れた地域の中、思いやり、みんなでひとりを支えよう」を作り上げ、その理念を各ユニットのリビングルームに掲げている。管理者と職員は、日々その理念を確認しながら実践につなげている。医師、看護師共に24時間のオンコール体制が取られ、安心安全が確保されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「住み慣れた地域の中、思いやり、みんなでひとりを支えよう」の理念を掲示。職員と共有し、共通したケアに繋げられるように取り組んでいる。	この事業所で、今何が大きかを考えながら独自の理念を作り上げ、その理念を各ユニットのリビングルームに掲げている。管理者と職員は、日々その理念を確認しながら実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭り、イベントへ参加。散歩や買い物際には挨拶を交わしている。	自治会に加入して、近くにある商店街のイベントや盆踊り等に積極的に参加している。日常的に散歩や買い物に出かけ、近隣の人々と挨拶したり話し合ったりしている。直ぐ近くの公園にふれあい花壇を設け、地域の環境美化にも貢献している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で認知症の対応で困っている方やグループホームでの取り組みを知りたいという方には、来所して頂き見学や説明を行っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回で開催。運営状況(事故・苦情・地域との関わり、ホーム内での取り組み等)を報告。参加者からの意見や要望が、運営に反映できるように、活かしている。	利用者家族、地域包括支援センター職員、地域代表者、事業所職員等が参加して、年6回定期的に会議を開いている。介護方法や取り組み方等について、参加者から意見等が出され、出来る事は直ぐに実行している。しかし、利用者やその家族の参加が非常に少ない。	可能な限り、利用者や家族に参加を呼びかけ、また運営推進会議で話し合われた内容を、参加出来なかった家族に知らせる方法を考えて、理解と参加を促し、会議がより充実する事を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連絡会等へ参加。電話連絡やメールを活用して連携を図っている。	区役所保健福祉課の各担当窓口へは、折に触れて訪問をしながら連携を持ち、情報交換を行ったり、指導を受けたりしている。生活支援グループの訪問が定期的にある。区のグループホーム連絡会が2ヶ月に一度あり、事例研究や相談等をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を月1回開催。日中は玄関を施錠しないことで職員付添いのもと自由に行き来して頂いている。	点滴で養分を入れたり、尿道に管を通して尿を出したりする等、ある程度身体を固定して、医療行為をする必要のある認知症高齢者も受け入れている。職員は、勉強会を毎月行いながら、身体拘束に当たらないケアの実践に取り組んでいる。玄関、各フロア、エレベーターは、自由に行き来出来るようになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を開催。リーフレットも活用しての周知徹底を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や個々に、成年後見人制度がある事への学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前または入所時に説明を行った上で、契約を行っている。契約内容に疑問な事があれば、入居後でも説明し納得頂けるような対応を取っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者・家族とのコミュニケーションを十分に図り、意見・相談・不満・苦情を聞き取り、職員へ周知するとともに、運営に反映させるように努めている。	利用者は、日常の会話の中から、家族等は、来訪時や運営推進会議の中から等、色々な機会を通して意見や要望を聞き出すようにしている。利用者の外出を増やして欲しいとの要望に応じたり、耳掃除をして欲しい人に綿棒を用意して処置したり、洗濯物の間違いをなくしたり、出された意見や要望には、即座に対応するようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議やその都度必要に応じて職員 の意見や提案を聞き、話し合う時間を設 け、運営に反映している。	月に1回のフロア会議や全体会議で、行事に 関する事や利用者の介助に関する事等、運営 に関する職員の意見を聞く機会を設けて、運 営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、 やりがいなど、各自が向上心を持って働ける よう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、評価表を配布し自己評価するとと もに、レポートも提出。やりがいや給与の 向上につなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの 実際と力量を把握し、法人内外の研修を受け る機会の確保や、働きながらトレーニングして いくことを進めている	様々な人材・業種が入職。グループ全体と しての他職種との勉強会を開催している。 各事業所ごとにも勉強会を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する 機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互 訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上 させていく取り組みをしている	他事業所との交流を図り、他事業所の取り 組みやケア方法等の情報交換や連携を 図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困ってい ること、不安なこと、要望等に耳を傾けなが ら、本人の安心を確保するための関係づくり に努めている	入所までにご本人と話し合う機会を設け、 入所に関しての不安や要望を出来る限り 聞き出し、安心して入居頂けるように努め ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様又は紹介頂いたケアマネジャーを通じて話し合う機会を設けている。実際にホームを見学し、雰囲気や取り組みを理解して頂くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループ内での資源を最大限に活用し、幅広いサービスを提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者一人ひとりの喜びや悲しみに理解するように努め、その思いに寄り添い、共に支え合える関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	支援する上で、すべてを職員が行うのではなく、ご家族様の協力も得ながら支援するように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の協力も得て、面会や外出を通じて、馴染の場所や馴染の人に会えるように支援している。	利用者本人と地域社会との関係を継続していくために、馴染みの喫茶店や寿司屋、販売店等への訪問を、家族の協力を得ながら支援している。近くに家族がいない場合は、事業所の職員が支援している。以前の住まい近くにいた友人が訪ねて来た事もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、孤立しそうな場合は、職員が間に入り、入居者同士の交流が図れるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関わりを必要とする入居者やご家族様には、継続して関係が保てるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりや面会時家族から、生活への思いや希望・意向を聞きだし、把握に努めている。	利用者の生活歴を参考にしながら、毎日の関わりの中で、外出や食事、趣味等の希望を聞き出し、出来るだけ利用者の意向に沿った支援をするよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に御家族様やご本人様から情報を得たり、入所後も日常の関わりの中から情報を得るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りにて日々の状態について報告し、それに沿ったサービスの提供を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス前には、入居者・ご家族様より情報を得るように努めている。カンファレンスでの内容を踏まえての介護計画の作成。計画作成後は職員にも確認して頂き、家族へ報告している。	支援経過やモニタリングの記録を基に、家族からの「寝たきりにさせないで欲しい、本人のしたい事はさせて欲しい」等の要望を良く聞き、サービス担当者会議を開いてケアプランに取り入れている。ケアプラン作成後も、本人や家族の確認、承諾を得るようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録へは、些細な内容も残し、職員間で共有している。記録を通して介護計画の評価・見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループ内での資源を最大限に活用し、また、グループ外のサービスも活用し、幅広いサービスを提供できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の人と関わる事により、地域の行事などに参加でき、楽しみを持って生活ができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体であるクリニックへは体調不良時にはすぐに診療が受けられる体制が整っている。入所前からのかかりつけ病院にも通院出来る体制も整えている。	経営母体の医療法人が契約医療機関となっていて、殆どの利用者がかかりつけ医としている。本人や家族の希望で、今までのかかりつけ医の診療を受けている利用者も数人いて、利用者一人ひとりの要望に応じた医療の受診支援が出来ている。週3回の看護師の訪問と、24時間オンコール体制も整っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体となる診療所から、医療連携体制をとっている。日常の健康管理や医療支援者への支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	緊急時に提携病院への入院が行えるような体制を整えている。入院期間が長引かないように、退院後の体勢を整え、病院側との情報交換・相談に努め、早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時契約の際説明を行っている。入居者の状態の変化に合わせて、都度入居者・ご家族様へ具体的に説明を行っている。	重度化した場合の対応のあり方について、事業所の指針を作成し、対応しうる最善のケアについて利用者、家族に説明し、同意書を交わしている。重度化した時は、本人、家族等の要望に沿って、ベッドで寝た切りではなく、利用者同士が集う事が出来る支援を最後までしている。医療依存度の高い利用者も受け入れているため、看取り経験は多数ある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルを作成、掲示。日頃から事例に沿って指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難経路・避難方法のマニュアルを用意している。入居者も交えての避難訓練の実施。 夜間想定・地震の訓練も実施している。	災害時における避難訓練や消火訓練を、利用者と共に年に2回、1階の小規模多機能施設と合同で行っている。災害に備えた水・食料や備品も整えられている。しかし、夜間を想定した地域の人々との避難協力体制に少し不安がある。	職員が利用者を安全な処まで誘導した後の見守りを、近隣の人にお願ひし、いざという時に混乱しないよう役割分担して、避難訓練を折に触れて行う事が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に人生の先輩である意識を忘れず、個々の認知症状を理解した上での援助に努めている。否定的、抑圧的な言動は行わない。声掛け・行動も含めプライバシーへの配慮にも努めている。	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねる事のないよう、目立たずさりげない言葉かけや介助が見られる。プライバシーの保護、接遇等についての研修会を、年に2回実施している。個人ファイルは、事務所の書庫に厳重に施錠して保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の発する声に耳を傾け、生活の中で希望や思いを聞きだし、その意思を尊重出来る様に支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の暮らしを最優先し、柔軟に業務進行できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月訪問理容が来所。外出時には、更衣・身に付けるものへの確認を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備やかたづけについては、入居者が負担にならない程度で、手伝って頂いている。 食事に関する聞き取りを行い、食事業者との会議に参加し食事メニューに反映している。	食料業者から搬入される調理済み食材を厨房で温め、利用者と共に盛りつけを行っている。月に1度は、食事レクリエーションや行事食等を行い、準備・後片付けを利用者と共に行っている。しかし、職員は、食事介助や見守りに徹していて、家庭的な団欒の雰囲気には、少し欠けている。	利用者が重度化して、職員が食事介助に多く手を取られる中、少しでも利用者と同じ食卓を囲んで、同じ物を楽しく摂る団欒の場を作るよう工夫することを望む。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事摂取量を都度記録。摂取不足の場合は申し送りで報告。また状況に応じて医療機関へも報告して対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア実施。食事を摂られていない入居者へも時間を決めての口腔ケア実施。症状に合わせてスポンジやペーパーを使用		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は2人介助であっても座位が確保できる方にはトイレ誘導し、トイレでの排泄を促している。その人の排泄時間で誘導を行っている。	利用者一人ひとりの排泄チェック表で排泄パターンを把握し、活用している。夜間は担当の職員が2時間毎に見回り、出来るだけ睡眠の妨げにならないように、注意をしながらトイレ誘導を行い、自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来る限り、薬に頼らず、腹部マッサージ・温罨法でトイレでの自然排便に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴チェック表を活用し、入浴しない期間が長くならないように努めている。希望に応じて、いつでも入浴できる体制を整えている。(午前中・夜間帯も可能)	入浴は、月木か火土の週2回と、一応決めているが、日曜日以外は何時でも、利用者のこれまでの生活習慣に合わせて入浴が楽しめるよう支援をしている。入浴拒否の利用者には、時間をずらしたり職員を替える等、工夫しながら対応している。入浴剤を入れて楽しむ工夫もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝・起床時間は入居者の生活習慣を把握した上で、声掛け・誘導している。しかし昼夜逆転の恐れがある入居者には、生活リズムを整える就寝・起床時間を促している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しく薬が処方された場合は、理由と作用を理解するように努めている。変更や追加時に副作用等の有無に気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人らしさを発揮できるように、個々に合わせての役割づくり、楽しみを提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々に外出の機会は設けている。日用品の買い物もスタッフが付き添って行って頂いている。外出先によっては、ご家族様の協力も呼び掛けている。	天気の良い日は、近くのスーパーや公園、商店街まで散歩に出かけるようにしている。家族の協力を得て、外食や利用者の馴染みの処に行くこともある。近隣の公園には、ソシアス花壇があり、季節の花が植えられていて、散歩時に楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が不可の方に関しては、ご家族様の同意を得た上で、施設側が立て替えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様との連携により、電話や手紙のやり取りが出来る様に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	物の配置や室温等、入居者の視点で設定している。季節感が目でも感じ取れるような環境づくりにも努めている。	明るい台所とつながったダイニング兼リビングは、食事作りの音や匂いに満ち溢れ、生活感が漂っている。リビングの壁には、職員と利用者で作った季節の飾りつけがある。利用者は、一人でいたり、気のあった人同士が話し合ったりして、思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや一人座椅子の配置にて、個々過ごせる空間を配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、使い慣れた家具や寝具を用意して頂いても構わない事を伝えている。テレビの設置も可能で、自室でくつろげる空間を提供している。	それぞれの居室には、利用者の使い慣れた家具や家族の写真等が持ち込まれ、自由に配置され、その人らしく居心地良く過ごせるための工夫が見られる。医療行為の必要な重度の利用者の入り口には、体位交換、口腔ケア等細かな記録があって、一人の利用者を皆で支えるための工夫が見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の各場所にポスターやプレートを掲示する事で、自らが考え行動できるように工夫している。		